

# Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

## Press-release

### ① 5月17日：

デジタル・ディバイド克服に向けて

ITU創立140周年 世界電気通信日を祝う

ITU Highlights Progress Towards Bridging the Digital Divide World Telecommunication Day celebrates 140 years of telecommunication

(出典：[www.itu.int/newsroom/press\\_releases/2005/05.html](http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2005/05.html))

5月17日は、1865年にITUがパリで創設されたことを祝う世界電気通信日である。内海善雄ITU事務総局長は、その日、東京で開催中の世界情報社会サミット(W SIS)テーマ別会合「東京ユビキタス会議」(5月17～18日)の中で、ITUの創立140年目を祝う記念講演を行った。

内海事務総局長は、「コミュニケーションは人間が本性として持つ欲望であり、その能力は人類が生まれ持っているものである。ITUは、140年もの間、電気通信技術を活用して人類の基本的欲求であるコミュニケーションを進展させる重要な使命を担ってきた。その間、情報の恩恵を世界中のすべての人々にもたらしめるための中心的存在であり続け、また、各時代の要求に柔軟に対応した構造改革の実績は、世界的なビジネスコンサルタント、Booze Allen Hamiltonから世界トップテンにも選ばれている。ITUでは、コミュニケーションは人類の基本的な人権であると考えており、今年の世界電気通信日のテーマである「Creating an equitable Information Society: Time for Action」(公平な情報社会の創造：行動のとき)は、何百万人もいる情報弱者の人たちに対しても、この基本的人権を行き渡らせ、ICT技術をだれでもが公平に使えるようにしようということである。

また、2005年はITUがメイトランド報告(The Missing Link)を1985年に発表してから20年目の記念の年でもある。20年前の報告では、人類の半数は単純な電話すら経験したことがないことを明らかにした。モバイル、低廉な衛星サービス、大容量の無線サービスなどの

出現により、電話加入者数は1990年以降、世界人口の10%から40%以上へと4倍に、携帯電話は1991年の0.3%から現在は20%超へと大幅な伸びを示している。

また、ITUでは、世界人口の80%は携帯電話が使える地域にあり、開発途上の国々でははまだ利用は少ないものの、10年以内には全世界の50%の家庭に普及すると予測している。インターネット接続は、15年前にはわずか27か国のみであったが、現在はほとんどの国がThe World Wide Webに接続できるようになっており、インターネットユーザーは700百万人(世界人口のおよそ11%)と推測されている。しかし、このような右肩上がり統計では見えない事実がある。後発途上国の大多数の人々は基本的な電話サービスでさえ困難な村落で生活しているし、先進工業国であるオーストラリア、カナダ、北欧の国々でさえ、アクセスが困難な地域が多くある。この様な状況から、今年の世界電気通信日(W SIS)チュニジア会合では、2003年のジュネーブ会合で承認された10か条のアクションプランを明確に具体化することを目標としているのである。ますます相互に関連し合う世界において、この目的を達成するためには、政府、国際機関、市民社会、プライベートセクターが参加するマルチステークホルダーの協力が必須となる」と協力を呼び掛けた。

Kofi Annan 国連事務総長からは、「だれでもが平等にアクセスできる情報社会を構築するためには、国連等の国際機関とともに、政府、市民社会、ビジネス社会の間の強いパートナーシップが不可欠です。今年の世界電気通信日のテーマは我々に2003年のW SIS第1フェーズで採択されたビジョンを明確に実施しようと呼びかけているのです。メンバー国をはじめ、全ステークホルダーがそれぞれの役割を再確認し、今年11月のチュニジアでのW SISへの参加を期待しています」とのメッセージが寄せられた。

### ② 6月13日：

ITUの新規格、速度はADSLの10倍

ベンダー各社は、VDSL2の成立を歓迎

## New ITU Standard Delivers 10x ADSL Speeds Vendors applaud landmark agreement on VDSL2

(出典: [http://www.itu.int/newsroom/press\\_releases/2005/06.html](http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2005/06.html))

5月27日、ITUは、ビデオ、インターネット、音声サービスのトリプルプレーを、スタンダードADSLより最高で10倍速く提供できる“スーパー”トリプルプレー技術仕様“VDSL2”を固めた。このVDSL2 (ITU-T G.993.2) により、世界中のテレコム・オペレータは、銅製の電話ケーブルを使って、HDTV、ビデオ・オン・デマンド、テレビ会議、高速インターネットアクセス、VoIPといったサービスを提供できるようになり、ケーブルTV事業者やサテライトプロバイダーのサービスに対抗できるようになる。VDSL2は、上り、下り共に100Mbpsのスピード(スタンダードADSLの10倍)を提供できるので、光ファイバーを使わずに、光ファイバーと同等の帯域幅を建物内へ引き込む、いわゆる「ファイバーエクステンション」を提供できるようになる。VDSL2は、利用者からの要望が高まっている高速マルチメディアサービスに適用できるほか、キャリアが既に多くの企業に設置したDSL設備との共用も可能なため、VDSL2ベースの商品への移行をスムーズに促進できるという効果もある。さらに、ATMネットワークや次世代IPネットワーク上でも利用可能である。担当SGの議長である前田洋一氏は、「ADSL、ADSL2+、VDSLの強みを十分に生かして、VDSL2の高いパフォーマンスレベルを実現した。この新勧告案は、通信分野において極めて重要な意義を持つものであり、それぞれにビジネスを担っている参加メンバーの画期的合意によるものである」と述べた。

### E-flash

#### ③ ITU-T e-FLASH No.16 (5月17日)

(出典: <http://www.itu.int/ITU-T/e-flash/016-may05.html>)

#### ・ Lighthouse、ITU-Tのための新しいコミュニケーションセンター誕生

##### The Lighthouse, a new Communication Centre for ITU-T

ITU-Tは、5月17日の世界電気通信日に新しいITU-Tコミュニケーションセンターとなるライトハウス(Lighthouse)を披露する。Lighthouseは、ITU-Tの過去、現在、及び将来の活動に光を当て、ニュース、特集記事、及びFAQを分かりやすく提供し、ユーザーフレンドリ

ーなもう一つのITU-Tの側面を紹介するものである。Lighthouseのライブニュースを使えば、ITU-Tで起きている最新の動きが分かる。ライブニュース配信は、NGN、マルチメディアQoSなど個別に申し込む方式である。NGNに関心がある場合、NGNのチャンネルに加入すれば、NGNに関する情報が、即刻あなたのデスクトップに配信される。さらに、Lighthouseでは、有益な特集記事や技術解説も扱う予定である。Lighthouseの記事は、各界の専門家、アカデミー会員、又はTSBスタッフによって書かれる。Lighthouseの目的に合った題材をお持ちの方は、standards@itu.intに御連絡ください。

#### ・ ITU-T会合でグリッドコンピューティングをプレゼンテーション

##### Grid Presentation at ITU-T meeting

グリッドコンピューティング関連技術は、ITUメンバーの関心が高く、ITU-TのTechnology Watch部門で研究中である。ITU-Tは、Global Grid Forum (GGF) と共に、通信とグリッド技術のワークショップを2006年に開く予定である。4月25日～5月6日にジュネーブで開かれたStudy Group 13会合で、ノーテルのFranco TravostinoがGGFを代表してプレゼンテーションを行い、グリッドの基礎を説明するとともに、GGFの活動を紹介した。また、Travostinoは、グリッドは、より太い通信パイプを提供するだけでなく、ネットワークの制御法、ダイナミックな設備の運用管理法など、ITU-Tにとっても重要な課題があることを指摘した。

#### ・ 標準がウェブサービスを効率化

##### Standards Improve Web Services Efficiency

Study Group 17のウェブサービスにかかわる勧告化作業が終了した。ウェブサービスは、携帯電話などで使われており、いろいろなプログラミング言語、プラットフォーム、OSなどの上で各種のアプリケーションソフトウェアを動かす際の標準的な方法である。ウェブサービスは、XMLを使用し、構造化された方法でデータをやり取りするので、異なった種類のプログラム間のデータ送受が容易にできる。しかし、XML形式で構造化されたデータは、余分な情報を多く含んでいるため処理が遅く、携帯電話や携帯デバイスなどのように帯域幅やデータ処理能力などに制限のある領域でのウェブサービス利用は、限定されていた。新しい勧告案(X.892とX.891)は、より効率的な構造化データのコーディングを仕様化したITUの表記言語ASN.1を用いて、帯域幅や処理速度などによる利用制限の問題を解決している。

## ・標準化トレーニングⅡ Standards Training Ⅱ

標準化にかかわる管理職を対象とした教育・育成プログラム、World Standards Cooperation initiative (WSC)を進めているIEC、ISO、及びITUの3機関は、新たに‘フィールドビジット’をプログラムに加えた。4月11～24日までジュネーブで開催されたコースには、およそ30人が参加し、標準化の必要性を共有できたと、このコースを称賛した。‘フィールドビジット’として、参加者は近くのSwisscom電話交換機を現地視察した。中でも、標準のどの部分が‘トリプルプレー’(声、ビデオ、データ)サービスに使われているかに注目していた。

## ・ITU-T標準を見る新方法

### A New Way to Look at Recommendations

ITU-Tウェブサイトから、ITU-T勧告を見る新しい方法が提供される。この方法は、メンバーが標準番号の割当てを管理しやすくするために開発されたもので、シリーズとサブシリーズ、担当スタディグループ、複数のスタディグループにかかわる標準などを‘ツリー構造’で整理したものである。あるStudy Group議長は、「スタディグループに割り当てられた標準の一覧を探索する良い方法がないかと考えていたので、私はこのツールが示す具体的な進展を見て、非常にうれしい」と語っている。

## ・ビデオと画像コーディングのワークショップ

### Video and Image Coding Workshop

ITUは、ジュネーブのITU本部で7月22及び23日に、画像とビデオのコーディングそしてApplications (VICA)のワークショップを開催する予定である。専門家とユーザーが、ビデオと画像コーディングの開発、評価、及び応用について議論し、VICA標準化の動向とロードマップに関して意見交換する予定である。VICAの標準が次世代ネットワーク(NGN)の中でどのような位置付けになるかや、ホームネットワーク環境に対する現在の作業も議論される見込みである。

## ・広帯域音声ワークショップ

### Wideband Speech Event

ITU-Tは、今年も、ETSIによって開催される端末とネットワークにおける広帯域音声品質に関するワークショップを支援する。前回は、音声品質仕様及び広帯域音声通信システムの評価・測定の機器が不十分であるとの結論であったが、本年6月22～23日にドイツのマインツで開催予定のこのワークショップで、ITU-Tの専門家によって設計された音声品質予測ツール、e-モデルを含む昨

年のワークショップ以降の進捗を展示する予定である。

## ・ITU-Tのオープンスタンダード

### Open Standards an ITU-T Perspective

‘オープンスタンダード’という語に対するITU-Tの定義が、ITU-Tの知的財産権(IPR)の専門家グループによって作成され、発行された。この語に対する様々な異なった解釈が引き起こす混乱を避けるために行われたものである。

定義の草稿は、[www.itu.int/ITU-T/othergroups/ipr-adhoc/openstandards.html](http://www.itu.int/ITU-T/othergroups/ipr-adhoc/openstandards.html)で見ることができる。

## ④ITU-D e-Flash No.11 (6月1日)

(出典：<http://www.itu.int/ITU-D/e-flash/2005/june.html>)

## ・WTDC-06に向けてアラブ地域準備会合開催

### Arab Regional Preparatory Meeting prepares the road for the World Telecommunication Development Conference (WTDC-06)

2005年5月16～18日まで、アルジェにおいてアラブ地域準備会合が開催された。この会合は、アルジェリアの郵電省の招聘によりBDTが開催したもので、ITU-Dの11のセクターメンバー及び15か国から107名の参加があり、イスタンブールアクションプランの実施状況のレビューとWTDC-06の準備について議論された。

## ・ITU、パプア・ニューギニアのICT政策の策定と電子政府化を支援

### ITU helps Papua New Guinea elaborate a national ICT policy and implement an e government platform

e戦略の一環として、ITUは、パプア・ニューギニアのICTに関する国内政策の策定プロジェクトとeガバメント実施プロジェクトの資金的支援を含むコーディネーションを行っており、通信省の電子政府化に取り組んでいる。両プロジェクトは、順調に進展しており、eガバメント実施プロジェクトは今年末までに稼働の予定である。

## ・ITU、CEE、CIS及びバルト諸国のためのサイバーセキュリティに関する地域セミナーを開催

### Cyber security issues discussed at the Regional Seminar for CEE, CIS and Baltic States

2005年5月25～27日まで、CIS、CEE及びバルト諸国のためのサイバーセキュリティに関するセミナーが開催された。このセミナーは、ラトビア政府の協力のもとITUが開催したもので、各国の通信政策担当者、通信会

社並びにプライベートセクター等から参加があり、サイバーセキュリティの脅威、対策、成功事例等について情報の共有、意見交換を行った。

・アフリカのICT開発のための投資戦略及び投資活動について、プライベートセクターで議論

Private sector ideas for strategies and actions for investment in the ICT sector in Africa

2005年4月25～26日まで、モザンビークのマプトにおいて、第3回アフリカ地域パブリック・プライベートセクター・パートナーシップ・フォーラム(PPPF-Africa2005)及びプライベートセクター問題に関する地域ワーキングパーティーフォーラムが開催された。これらのフォーラムは、モザンビークの通信主管庁(INCM)の招聘によりITU/BDTが開催したもので、各国政府代表をはじめ、ITU-Dセクターメンバー、通信事業者、サービス事業者、財務関係者等が参加し、アフリカのICT開発のための投資に関する戦略と活動について議論された。

・アフリカの規制当局、ブロードバンド接続について議論  
African regulators discuss challenges for broadband connection

2005年4月27～28日まで、モザンビークのマプトにおいて、アフリカの通信規制に関する第6回政策フォーラムが「ブロードバンド：アフリカ規制体の挑戦」と題して開催された。このフォーラムは、モザンビークの通信主管庁(INCM)の招聘によりITU/BDTが開催したもので、各国政府代表をはじめ、ITU-Dセクターメンバー、通信事業者、サービス事業者、財務関係者等が参加し、主にアフリカのICT開発のための政策、法規、管理業務等の統合化の必要性とブロードバンドの整備について議論された。次回のFTRA-2006は、the Regulatory Agency of Gabon, ARTELの招聘により、ガボンで開催されることとなった(日程は、近く連絡される)。

・WSIS直前に世界規制体シンポジウム2005を開催

Global Symposium for Regulators (GSR) 2005 to meet prior to the second phase of the World Summit on the Information Society

第6回世界規制体シンポジウムが、2005年11月14～15日まで、チュニジアのヤスミン・ハマメットにおいて開催される予定となっている。このシンポジウムは、チュニジアの通信主管庁の協力でITU/BDTがWSISの直前に開催するもので、情報社会を構築するための4つの重要な課題であるブロードバンド、周波数管理、スパムメールへの国際的な対応、IP電話(VoIP)を中心に議論さ

れる予定である。これら4つの課題に対する規制面の検討は、ITUが発行する“Trends in Telecommunication Reform 2005/2006年版”に収録される予定である。また、この本は今回のシンポジウムでのディスカッションペーパーともなる。

・ITU/BDTの通信規制調査 — 規制に関するデータ収集  
ITU/BDT Annual Telecommunication Regulatory Survey 2005- Collecting Regulatory Data

5月、ITU/BDTは、通信政策調査のために情報収集を開始した。本調査は、毎年行われているもので、今年で11年目を迎える。本調査の結果は、TREGの略称で知られているICTの規制に関するライブラリーの基礎データとなる。また、本調査結果は、WTDC2006に合わせて発行される“Trends in Telecommunication Reform”にも反映される。

・アフリカの地域セミナー、ユーザーの要望に沿った次世代ネットワーク(NGN)について議論

Next-generation networks (NGNs) for next generation users discussed in a regional seminar for Africa

2005年5月9～12日まで、ケニアのナイロビにおいて、「開発途上国における固定網と移動網の統合及び既存移動網からIMT-2000への速やかな移行に関するガイドラインに関するアフリカ地域セミナー」が開催され、業界、政府関係者等、170名の参加者を集めた。本セミナーは、ケニア通信諮問委員会(CCK)及び国際テレトラフィック会議(ITC)の協力で、ITU/BDTが開催したもので、主に、通信とITと放送の統合についてその概要が説明された。そして、技術に強い現在の若者たちが次の世代のデジジョンメーカーとなる、NGNは、その彼らの要望に沿ったものでなければならないと指摘された。

・SG-1、開発途上国へのIP電話の導入についてのレポート、Web上で公開

Study Group 1 reveals the pros and cons of the implementation of IP telephony in developing countries

ITU-D SG-1課題19/1(発展途上国におけるIP電話の導入)に関するレポートがまとめられ、Web上で公開されている。レポートには、IP電話についての解説、導入の成功例、経験談等と、発展途上国におけるIP電話の導入に対する結論が掲載されている。ITU-Dメンバーであれば、閲覧可能である。

⑤ITU-T e-FLASH No.17 (6月6日)

(出典: <http://www.itu.int/ITU-T/e-flash/017-jun05.html>)

・ITUの新ブロードバンド標準、速度はADSLの10倍  
New Broadband Standards from ITU Gives 10x ADSL Speeds

同一内容の記事が、本号プレスリリース②(6月13日)に掲載されているので、翻訳は割愛する。

・標準が地下鉄ネットワークに核心技術を提供  
Standard Brings Core Technology to Metro Networks

ITU-TのStudy Group 15の新しい標準は、異なるベンダー間の機器の相互運用を可能とするもので、これによりネットワーク・オペレータはdense wave division multiplexing (DWDM) システムを地下鉄で展開することが可能になる。WDM技術は、1対の光ファイバーを複数の波長で同時に利用し、伝送容量を増大させる技術である。DWDMシステムは、WDMで使う波長の数をより多くしたもので、1本の光ファイバーで最大80チャンネルの伝送が可能であり、長距離用コアネットワークとして利用されている。WDM技術の一種であるCWDM(CはCoarse)は、都市部で最初に導入されたもので、現在最大12チャンネル、将来でも16チャンネルの伝送しかできない。今回の標準(ITU-T Recommendation G.698.1)は、オペレータが望んでいたもので、異なるベンダーの機器を組み合わせ、都市部でより大容量のDWDMシステムを使えるようにするものである。

・光学現象に対するITU-T勧告

ITU-T Recommendation Addresses Lightwave Phenomenon

新しいITU-T勧告案は、光ファイバー中の偏波モード分散(PMD)補償用デバイスの特性を規定する。PMDは、光がファイバー内を伝搬するときの偏波の向きによる伝搬速度の差によって引き起こされるもので、光ファイバーが地中に敷設されたり、コーナーで曲げられたり、あるいは製造過程で生じる光ファイバー中の歪などによって引き起こされる。PMDは、ビットレートや光伝送システムの距離が増してくると、非常に重大な問題になる。例えば、現在の高密度波長分割多重(DWDM)システムにおいて、10Gbit/sでは、PMDはほとんど問題にならないが、40Gbit/sでは、補償が必要になる。従前よりもっと効率的な方法でこの問題を解決し、同時にPMD補償装置の市場を活性化させ、廉価な製品の出現を促すため、ITU-Tの標準化作業が待たれて

いた。この勧告案をつくったグループでは、今後PMDと同じように光ファイバーの伝搬速度や伝送距離を制限する色分散について、取り組む予定である。

・海底ケーブルシステムの設計ガイドライン発行  
Design Guidelines for Submarine Cable Systems Issued

ITU-TのStudy Group 15は光海底ケーブルシステムの設計ガイドラインを発行した。海底ケーブルシステムは、南極大陸を除く全世界の大陸を結んでおり、世界のICTネットワークインフラストラクチャの非常に重要な部分となっている。ガイドラインは、ITU-T勧告Gシリーズの補足41の中に記載されている。

・次世代マルチメディアアプリケーションの提案募集  
Call for Papers on Next Generation Multimedia Applications

ITU-TのStudy Group 16は、次世代ネットワーク(NGN)上で働くマルチメディアアプリケーションの提案(必要技術)を募集している。NGNの到来により、より統合化され、より拡張性に優れた、新しい第3世代マルチメディア通信システムが創造されると期待されている。それゆえ、NGNサービスの核心部分を形成するマルチメディアシステムには、どのような内容や技術がふさわしいかを募集する。

詳細は、[www.itu.int/ITU-T/studygroups/com16/h325concept/](http://www.itu.int/ITU-T/studygroups/com16/h325concept/)を御覧ください。

・新イーサネットサービスが可能に

New Ethernet Services Made Possible

ITU-TのStudy Group 15は、装置製造者にEthernet virtual private line (EVPL) サービス用の機器製造の道を開く新しい勧告案に合意した。EVPLsは、帯域共用機能を使って、オペレータがポイント・トゥ・ポイント接続サービスを提供できるようにするものである。新勧告案G.8011.2は、SDH、ATM、MPLS、PDH、OTH、又はETXサーバイヤーネットワークで提供される帯域幅を共用し、ポイント・トゥ・ポイント接続でイーサネット情報を運ぶ場合のサービス属性とパラメータを定義している。

・RFIDの技術文書を発行

RFID Paper Available

ITU-Tは、Technology Watch活動の一環として、無線周波数識別(RFID)とその携帯電話サービスでの利用に関する技術文書を発行した。RFIDは、タグと呼ばれ

る小さい携行可能なデバイスにデータを蓄え、そのデータをRFIDリーダーで読み出して、それぞれの用途に利用する。その技術文書には、標準化作業の可能な領域はもちろん、携帯電話でのRFID技術応用のアイデア、セキュリティとプライバシーに関する事項が掲載されている。ITU-Tは、2006年の第1四半期にRFID標準化の課題に関するワークショップを開く予定である。

**WSIS Media Advisory**

**⑥5月30日：**

アジア・太平洋地域における情報社会の構築に向けて  
WSISアジア・太平洋地域会合、5月31日～6月2日、テヘラン

Building an effective Information Society in Asia and the Pacific Wsis Asia-Pacific Regional Conference, 31 May- 2 June 2005, Tehran

(出典：<http://www.itu.int/wsis/newsroom/>)

WSISのハイレベルアジア・太平洋地域会合が、2005年5月31日～6月2日まで、テヘランで開催される。本会合は、国連開発計画とアジア太平洋開発情報プログラム(UNDP-APDIP)の協力により、国連アジア・太平洋経済社会委員会(ESCAP)、ITUのアジア・パシフィック地域委員会、イラン・イスラム共和国政府により開催される。本会合では、アジア・太平洋地域の情報社会構築に向けての地域アクションプラン、及び情報社会の構築に関するテヘラン宣言を採択する予定である。また、第1フェーズと第2フェーズ間での進捗状況、インターネットガバナンス、ICT発展のためのファイナンシャル・メカニズムについても議論される。さらに、同会議では災害対策のための地域フレームワークを確立する観点から、ICTを用いたナレッジベースの対策についても検討が行われる。会合結果は、2005年9月のジュネーブのプレップコム3へ提出される。以下の課題について、集中的に討議される予定である。

- ・インターネットガバナンス
- ・ファイナンシャル・メカニズム
- ・ICT発展のための最適な方法
- ・ナレッジベースの災害対策用ICT
- ・地域アクションプランの開発について
- ・テヘラン宣言の確定

本会合は、WSISのジュネーブフェーズのフォローアップに焦点を当てたBishkek、Suva、Bali、Kathmanduの4会合の成果をベースとして行われるものである。

会 合 名：WSIS アジア・太平洋地域会合

開催日程：2005年5月31日～6月2日

開催場所：イラン・イスラム共和国、テヘランの国際会議センター

会合目的：地域アクションプランの開発とWSISチュニス会合へのインプット

講演者等：WSIS Executive SecretariatのDirectorであり、ITU代表のMr. Charles Geiger、WSIS Prepcom議長 Mr. Janis Karklins、UN/ESCAPのExecutive SecretaryであるMr. Kim Hak-su、WSIS国連特別アドバイザーのMr. Nitin Desaiにより、基調講演が行われる。

**⑦6月6日**

WSISラテンアメリカ・カリブ地域会合

WSIS Regional Conference for Latin America and the Caribbean

(出典：[www.itu.int/wsis/newsroom/](http://www.itu.int/wsis/newsroom/))

WSISチュニスフェーズのハイレベル地域会合が2005年6月8～10日にブラジル・リオデジャネイロで開催される。この会合の目的は、ラテンアメリカとカリブ海諸国の持続的な成長やデジタル技術の導入、地域連帯を目的とした地域宣言の採択とWSISのアクションプラン達成のための具体的な行動、イニシアティブに焦点を当てた地域アクションプランの作成である。併せて、市民社会、学究界、民間のマルチステークホルダーの参加によるセミナーも行われる。情報社会構築に関するトピックスは、以下の項目が予定されている。

- ・デジタル技術の導入と発展
- ・インターネット相互接続コストの削減
- ・フリーソフトウェアとオープンソースソフトウェア
- ・インターネットガバナンス
- ・ファイナンシングメカニズムとデジタル連帯基金
- ・eガバメント

WSIS地域会合はブラジル政府とECLAC(国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会)が共催する。

会合名：WSISラテンアメリカ・カリブ地域会合

開催日程：2005年6月8～10日

開催場所：Hotel Gloria, Rua do Russel

会合目的：WSISのチュニス第2フェーズへ入力する地域宣言、アクションプランを議論するため

参加者等：ラテンアメリカ・カリブ海諸国政府、国際機関、市民団体、プライベートセクター。ITUの事務総局長ロバート・ブロー氏により、基調講演が行われる。